

**主催：**印象派展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社、NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫）、朝日新聞社

**共催：**北海道テレビ放送、岩手朝日テレビ、東日本放送、秋田朝日放送、山形テレビ、福島放送、BS朝日

**後援：**外務省、文化庁、ドイツ連邦共和国大使館、ドイツ文化センター Goethe-Institut、公益財団法人日独協会、青森県教育委員会、北海道教育委員会、岩手県教育委員会、秋田県教育委員会、青森県市長会、青森県町村会、青森県文化振興会議、青森県観光連盟、JR北海道、JR東日本盛岡支社、十和田観光電鉄、弘南鉄道、津軽鉄道、青い森鉄道、IGRいわて銀河鉄道、弘南バス、南部バス、下北交通、JRバス東北青森支店、秋田中央交通、デリーー東北新聞社、陸奥新報社、河北新報社、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、エフエム青森

**協賛：**大和証券青森支店、住友化学三沢工場、丸大堀内、ハッピードラッグ、そふえ釣具、東酸

**協力：**三菱製紙八戸工場、日本航空、ルフトハンザ カーゴ AG

**観覧券：**一般 1,500(1,300)円 / 高大生 800(600)円 小中生無料



※100枚以上の前売券購入を予定している場合は実行委員会までお問い合わせください。  
 ※（ ）内は前売り、および20名以上の団体料金 ※心身に障がいのある方と付添者1名は無料。  
 前売券はチケットぴあ（サークルKサンクス、セブンイレブン等）[Pコード764・567]、ローソンチケット[Lコード21342]、青森県立美術館ミュージアムショップ、青森県内プレイガイドなどで2011年7月8日まで販売。

**関連事業：**講演会

- 7月9日(土) 13:30-15:00  
 “The Wallraf. The history of a European treasure house”  
 (「西洋美術の宝庫—ヴァルラフ・リヒャルトツ美術館コレクションの歴史」)  
 講師：ヴァルラフ・リヒャルトツ美術館館長 アンドレアス・ブリューム氏
- 8月14日(日) 13:30-15:00  
 「印象派—絵画を変えた画家たち」  
 講師：東京大学大学院教授 三浦篤氏(展覧会監修者)
- 9月17日(土) 13:30-15:00  
 「絵画をどう見るか—印象派の技法を中心に」  
 講師：東北芸術工科大学 美術史・文化財保存修復学科教授 森直義氏(展覧会コンサヴェイター)

**親子ギャラリーツアー**

8月2日(火)、4日(木)、9日(火)、11日(木)、16日(火)、18日(木) 各11:00-14:00-

**ワークショップ**

印象派絵画教室—レストラン山崎のランチを楽しみながら—  
 7月16日(土) 10:00-15:00(予定)

松村泰三「光の箱をつくろう」  
 8月20日(土) ①10:00-12:00 ②14:00-16:00

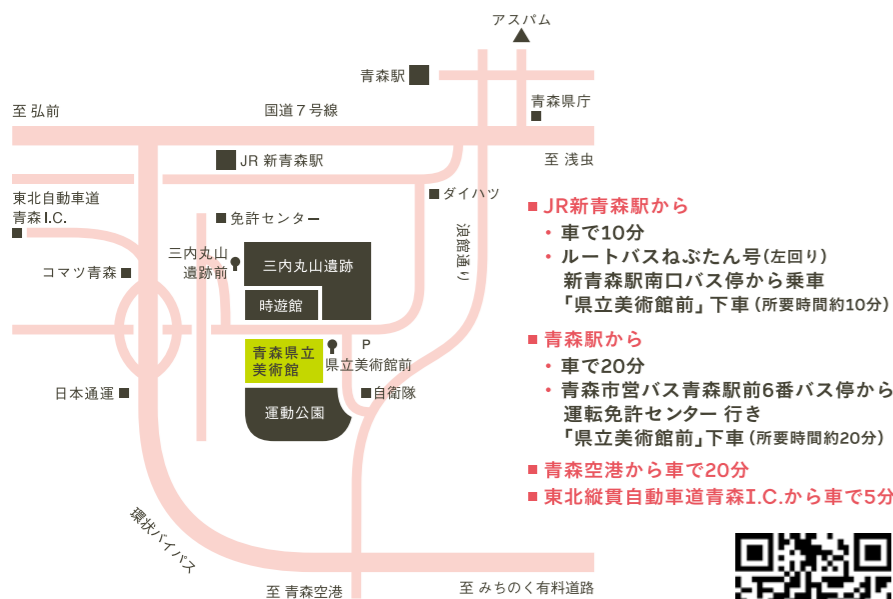
光の三原色キットで遊ぼう  
 9月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝) 各13:30-15:00(予定)

**オープンアトリエ**

油彩画強化週間  
 7月9-15日(土-金)、9月3-9日(土-金)

gedoneutralのオープンアトリエ  
 8月6-12日(土-金)※アーティスト滞在予定日8月6日、7日  
 講師：gedoneutral (アーティスト)

※参加方法等、詳しい内容は、今後美術館ホームページ、  
 展覧会専用ホームページ <http://www.insyouha.jp/> にて順次お知らせします。



- JR新青森駅から
  - ・車で10分
  - ・ルートバスねぶたん号(左回り) 新青森駅南口バス停から乗車 「県立美術館前」下車(所要時間約10分)
- 青森駅から
  - ・車で20分
  - ・青森市営バス青森駅前6番バス停から運転免許センター行き 「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
- 青森空港から車で20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C.から車で5分



お問い合わせ：印象派展実行委員会（青森県立美術館内）  
 〒038-0021 青森市安田近野185 TEL.017-783-3000(開館時間内)  
<http://www.aomori-museum.jp>

“This exhibition was conceived by the Wallraf-Richartz-Museum & Fondation Corboud, Cologne, Germany”  
 ©Rheinisches Bildarchiv, Köln



青森県立美術館 開館5周年記念

印象派

展

光を

描く

美術館が解いた謎

PAINTING LIGHT

5

青森県立美術館

AOMORI MUSEUM OF ART

2011年  
**7月9日(土) — 10月10日(月・祝)**  
 休館日：7月25日、8月22日、9月12日、26日  
 開館時間：9月30日まで 9:00-18:00(入場は17:30まで)  
 10月1日より 9:30-17:00(入場は16:30まで)

ポール・セザンヌ  
 《エクスマン=プロヴァンスの西の風景》  
 (部分) 1885-88年

PAINTING LIGHT

# 光を描く

# 印象派展

ゴッホ、ルノワール、モネ、マネ、セザンヌ、ゴーギャン… 巨匠の秘密に、青森だけで出会えます。

近代絵画史最大の事件 印象派誕生の謎を解く 4年がかりの調査が明らかにした光を描く技法 ヨーロッパで約60万人が観た話題の展覧会

光をとらえる鮮やかな色彩と生き生きとした筆のタッチ。印象派絵画が誕生する瞬間へと皆さんをご案内します。マネ、モネ、ルノワール、そして彼らに続くゴッホ、ゴーギャンなどポスト印象派。カンヴァスに向かう彼らの肩越しに、創作の秘密をのぞいてみましょう。

謎に迫ったのは、ドイツ屈指の印象派コレクションを誇るヴァルラフ・リヒャルト美術館。赤外線やX線、顕微鏡などを使ってじっくりと作品を調査しました。

印象派が作品を描いた場所、使った画材、下描きの方法、絵の具の塗り方、色の選び方、画家たちを惹きつけた光や色に関する最新の知識…。急速に近代化してゆく時代の空気に反応し、みずみずしい感性が生まれる新しい絵画。

科学の眼が明らかにした数々の手がかりから、印象派の魅力を解き明かします。ヴァルラフ・リヒャルト美術館のコレクションに日本国内の名品を加えた60点を超える名画を、創作の秘密とともにご堪能ください。

## 小さな粒の正体は??

画面を調べると、左下に小さな粒が見つかりました。顕微鏡で覗いてみると植物の芽のようです。画面にはポプラの木が描かれている。もしかすると… その通り、ポプラの芽であることがわかりました。この作品が強い風の日、実際にポプラ並木の下で描かれたことを示す証拠です。画面の洗濯物をはためかせている風がキャンパスの上にポプラの芽を飛ばしたのでしょうか。

でも作品はたて1m、よこ1.5mを超える大きさです。強い風の中で描くのは大変ではなかったでしょうか。光をキャンパスにとらえるためには、たとえ強風に邪魔されても戸外で制作する。小さなポプラの芽は印象派の画家たちの信念のあかしでもあります。

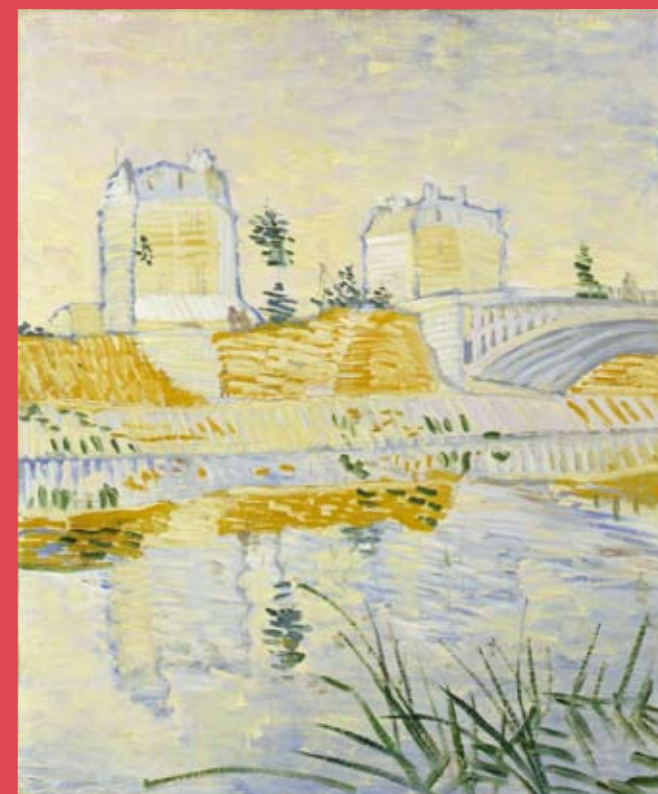
ギュスターヴ・カイユボット  
《セーヌ河畔の洗濯物》  
1892年頃、105.5 × 150.5cm、油彩・カンヴァス



## 棟方志功の原点 ゴッホ

## ルノワール 幸せを描く

ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
《縫い物をするジャン・ルノワール》  
1900年、55.5 × 46.4 cm、油彩・カンヴァス



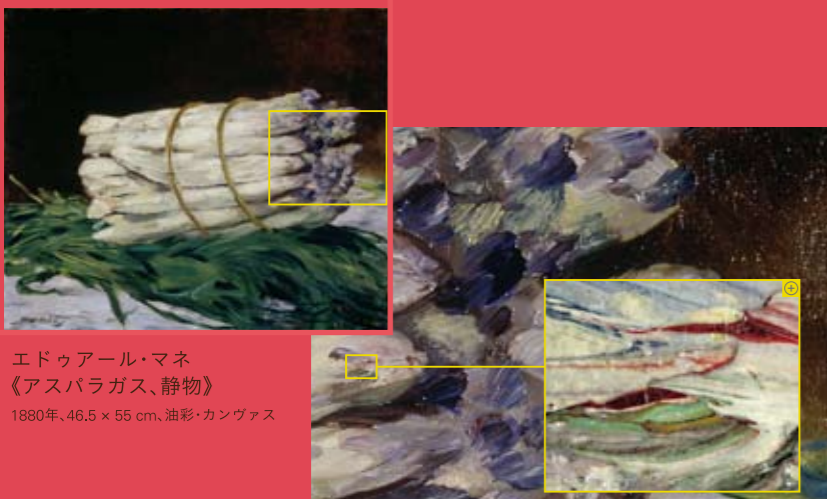
フィンセント・ファン・ゴッホ  
《クリシーの橋》  
1887年、55 × 46.3 cm、油彩・カンヴァス

## 顕微鏡写真が明かす巨匠の妙技!

一束のホワイト・アスパラガスが醸し出す存在感。ただそこにある野菜を不朽の名作にしてしまうマネの魔術師のような筆遣いの秘密を覗いてみましょう。アスパラガスのうっすらと色づいた穂先を顕微鏡で拡大すると、何色もの絵の具が混ざらず筋状になっています。マネは絵の具をあらかじめよく混ぜてから塗るのではなく、キャンパスの上で少しだけ混ぜ合わせることで、微妙な色合いと繊細な質感を作り出したのです。

## 点描のハーモニー シニャック

ポール・シニャック  
《カーボ・ディ・ノーリ》  
1898年、93.5 × 75 cm、油彩・カンヴァス



エドゥアール・マネ  
《アスパラガス、静物》  
1880年、46.5 × 55 cm、油彩・カンヴァス